



日本小児臨床アレルギー学会認定

小児アレルギー エデュケーター

Pediatric Allergy Educator, PAE



「小児アレルギーエデュケーター」制度は、アレルギー専門
メディカルスタッフ（看護師・薬剤師・管理栄養士）の
認定資格制度です。

さまざまな場面で小児アレルギーエデュケーターが活躍しています！

- アレルギーの専門知識と指導技術により、チーム医療を実現します。
- 職種別の専門性に特化したスキルを活かし、適切かつきめ細やかな指導を行い、患者・家族のアドヒアランス向上を目指します。
- 医師診療時間の短縮、患者・家族や学校関係者の相談対応、地域の啓発活動などに貢献します。

全国でたくさんのPAEが活躍しています!

アレルギー疾患対策には、診療ガイドラインにそった適切な治療が必要です。しかし、病態や治療に関する不十分な理解や、不安が原因で適切に治療が行われていないことがしばしばみられます。これらの問題を解決するためには、患者や保護者に対する患者教育が重要とされ、特に看護師を含む多職種による患者指導の有効性が報告されています。例えば「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2018」においても、アドヒアラス向上が重要であることや多職種の医療チームによる教育、専門看護師によるグループワークによる指導が推奨されていますが、その認識は未だ不十分と言えます。疾患の説明、治療目標の設定、正しい治療技術を指導することでアドヒアラスと治療効果が向上しますが、そのためには高度なアレルギーの専門知識と指導技術をもったメディカルスタッフとアレルギー専門医によるチーム医療が不可欠です。そこで本学会では、2009年にアレルギー専門メディカルスタッフの認定資格制度である「小児アレルギーエデュケーター」制度を設立しました。2019年までに3職種（看護師、薬剤師、管理栄養士）の481名がこの資格を取得し、全国の医療機関や薬局での患者教育、各地のアレルギーイベントや保育・学校関係での啓発指導で活躍しています。



PAEの所属機関

アレルギー専門医のいる小児専門病院や地域中核病院、大学病院のみならず、クリニックの他、教育機関や保険薬局などに所属しています。また地域ごとにブロック会を組織し、定期的に症例検討会や講演会、講習会などをを行うことでPAE間で情報を共有すると共に、スキルアップに努めています。

PAE資格取得までのプロセス

受験資格：看護師（准看護師含む）、管理栄養士、薬剤師

認定小児アレルギーエデュケーター講習会への参加条件

- ① 認定講習会受講申請時点で、医療提供施設における5年以上の臨床経験があること。
- ② 認定講習会受講申請時から遡って5年以内に、アレルギー学会専門医（小児科）の下で2年6ヶ月以上の臨床経験があり、規定の症例実績報告様式で20症例の報告を提出できること。さらに、その指導医の推薦があること。但し、小児アレルギー患者の臨床に携わる職場に勤務していて、指導医がアレルギー学会専門医（小児科）ではない場合は、所属施設において規定の症例実績報告様式で遡って5年以内に実績として40症例の報告が提出できれば、認定教育研修実施施設での研修を行うことでその代替措置とする。
- ③ 認定講習会申請時から遡って3年以内の基礎講習会の受講。
- ④ 小児アレルギーエデュケーター認定講習会受講資格試験に合格していること。
- ⑤ 認定講習会申込時から遡って5年以内に対象の学術大会に3回以上参加していること。

認定小児アレルギーエデュケーター講習会終了後、所属施設で、自ら指導した症例について症例報告を提出し（認定小児アレルギーエデュケーター試験）、合格すればPAEとして認定されます。

小児アレルギー疾患基礎講習会

認定小児アレルギーエデュケーター 講習会受講資格試験

合格

認定小児アレルギーエデュケーター 講習会

受講

認定小児アレルギーエデュケーター 試験

合格

認定小児アレルギーエデュケーター 認定証交付

※認定の更新は、5年ごとに行われます

PAEの活動内容

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息に関する高度な知識を持つスペシャリストとして入院中や外来、地域において患者とその家族のライフスタイルに合わせた効果的なケアの提供や指導、アドバイスなどを行っています。

食物アレルギー

- アナフィラキシー症状で使用するエピペン®の使い方（患児やご家族、学校関係者などのエピペン®注射を使う可能性がある方へ、使い方、管理方法、症状の対応についての指導）
- 食物アレルギーによる症状出現時の対処、受診の目安を指導

アトピー性皮膚炎

- 搌痒感や痛みの対処への取り組み
- スキンケア指導（患者さんの皮膚状態をみながら体の洗い方や軟膏の塗り方を説明します）

気管支喘息

- 喘息発作時の対処方法、受診の目安の指導
- 適切な吸入方法や喘息日記の使い方の指導
- アレルギー疾患患者に適した生活・環境づくり（ダニ、ハウスダスト対策、体力作りなど）
- 喘息発作の予防方法の指導（病気のこと、治療のこと、生活についての説明）

PAEは上記のような活動を行うと共に、内服や吸入が苦手な子どもたちへの内服・吸入指導や長期的に服薬が必要な子どもたちが自ら準備をして服薬を続けるための支援、病気をもつ子どもたちの成長発達のための支援など様々な場面において役割を担っています。また、学校、保育園などで治療やケア等をおこなう必要がある場合は教員らとの連携（喘息発作の対処やスキンケア、食物アレルギーの緊急時対応等）も行っています。さらに、職種別の専門性の高いスキルを活かし、実行性の高い患者教育を担うことで患児のアドヒアランス向上を目指しています。また、活動範囲も医療機関内にとどまらず、アレルギー患児や保護者、学校関係者へのアレルギーに関する知識の普及や理解を求める講習会やイベントも行っています。

管理栄養士による
食物アレルギー対応の料理指導



エピペン指導

喘息指導

専門メディカルスタッフとしてのやりがい

特定の分野で必要とされること、特定の分野に興味を持って進んでいくことは、医療者個人としてまた、組織として医療レベルの向上につながります。すでにアレルギー疾患以外ではいくつかのメディカルスタッフの認定制度が始まっています。小児アレルギー疾患の分野でも、専門メディカルスタッフとしてかかわる業務、患者数が多いことは明白で、それに携わる専門メディカルスタッフを学会が認定していくことは、専門メディカルスタッフのモチベーションの向上と患者にとっても満足度が向上することが期待されます。

PAE認定資格取得後の研鑽

アレルギー医療は、日進月歩です。資格取得後の研鑽の機会も増えていきます。

- 年1回開催の学術集会への参加
- 学会誌での勉強
- スキルアップセミナーへの参加
- 地域ごとのブロック会への参加



得ている評価

PAEが様々な活動を通じて高度なチーム医療ができるようになることで、患者・家族のQOLの向上に貢献しています。

患者・家族から

- 「よくなった。これからもがんばります。」と退院のときに手紙をもらった。
- 「食べられるようになったよ。」と経過の報告をくれる。

症状がよくなった報告や頑張りますという嬉しい言葉をダイレクトにもらうことが増えた。



医師から

- 診療に時間をかけることが難しいときにPAEが丁寧に指導してくれて助かります。
- 生活のことなど詳しく、的確にえた情報が診療で役に立ちます。

チーム医療により患者・家族のアドヒアラנסが向上し、症状改善や診療時間短縮につながった。



地域から

- 「困ったときに相談しやすくなりました。」
- 「子どもや家族が悩んでいるときに勧める病院がみつかった。」
- 小学校養護教諭から「自分が研修で学んだことを他の教員に説明するのは自信がない。エピペン講習に来てくれて安心した。」
- 集団生活で注意しないといけない点を具体的にアドバイスしてもらって助かった。



PAE資格取得者の声



患児や家族にかかわるときの指導テクニックやコミュニケーションスキルに磨きがかかりました。



看護師、薬剤師、栄養士と一緒にアレルギー教室の企画を立てることもあります。共に学習を積むことが出来て、連携のとりかたも学べます。



全国のPAEとのつながりによって仲間がいることを実感し、自分のモチベーションになっています。



PAEに関するお問い合わせ

info@jspca.jp

※お問い合わせはなるべくメールでお願い致します。

PAEのさらに詳しい情報

www.jspca.jp

【日本小児臨床アレルギー学会ウェブサイト】



一般社団法人 日本小児臨床アレルギー学会

Japanese Society of Pediatric Clinical Allergy (JSPCA)

事務局 〒183-8561 東京都府中市武蔵台2-8-29 東京都立小児総合医療センターアレルギー科内
TEL:042-300-5111(病院代表) E-MAIL:info@jspca.jp